

## <海外渡航>

①	アジア圏からの帰国者について、追加接種の考え方を教えてください。
	<p>→アジア圏においては、海外製のワクチンと日本国内で承認されたワクチンとの互換性が証明されていません。そのため、日本で接種を受けるのが無難であるとの文献もあります。このことを伝えた上で、最初から打ち直す場合には局所反応が強くなる可能性があること、また続きとして接種を受ける場合には互換性が不明であることをよく説明した上で、最終的には接種医と保護者で判断していただくことになります。</p> <p>※個別の接種スケジュールについては予防接種センターまでご相談ください。</p>
②	海外渡航を予定していますが子どもと大人（保護者）の接種は受けられますか？
	<p>→当院は子ども専門病院のため、初診時に18歳以上の方の受診や予防接種はお受けしていませんが、子どもと同伴の場合はその保護者も受けていただけます。大人の方の接種はトラベルクリニック等でご相談ください。</p>
③	カナダへの留学予定。留学先からワクチン接種の指示はありませんが、接種を受けた方がよいものはありますか？
	<p>→まずは、麻しん・風しん・水痘・おたふくかぜ等の抗体検査を受けて、低値のものに対して追加接種を受けることをお勧めします。</p> <p>カナダやアメリカへ留学される際は、B型肝炎や髄膜炎菌ワクチンの接種が必要です。状況により、A型肝炎や狂犬病も必要になります。</p> <p>狂犬病ワクチンは“曝露後ワクチン接種”とも言われています。特に接種を要求されておらず、万一の時すぐに受診ができる環境であれば、曝露前の接種は不要と考えられます。しかし、そのような環境でなければ必要に応じて狂犬病ワクチンの接種を受けるとよいでしょう。</p> <p>※詳しくは、厚生労働省「狂犬病に関するQ&amp;A」をご参照ください。</p>
④	成人で、MRワクチン、おたふくかぜ、B型肝炎を接種希望されていますが、同時接種はできますか？同時接種は何種類まで可能ですか？
	<p>→医師が特に必要と認めた場合には、他のワクチン（生ワクチン、不活化ワクチンの両方）と同時に接種することができます。何種類まで可能か、という点についても特に制限はありません。（例外としてコレラと黄熱ワクチン同時接種、髄膜炎菌と13価肺炎球菌ワクチン同時接種では効果が減弱することがわかっていますので、避けた方が無難でしょう）</p>
⑤	ニュージーランドへ渡航予定の4歳児、DPT-IPV（5回目）の接種を勧められています。そもそも5回目は必要ですか？
	<p>→近年、年長児や成人の百日咳が問題となっており、海外の先進国ではほとんどが4～6歳頃に追加接種をするスケジュールのようです。日本でも5回目の追加接種に関しての検討がされています。また、日本小児科学会は就学前児の百日咳抗体価が低下していることを受けて、任意接種として、就学前にDPTワ</p>



## <海外渡航>

	<p>クチン追加接種を推奨しています。</p>
⑥	<p>中国から一時帰国中。中国で受けた日本脳炎（弱毒生ワクチン）が日本にはないため、2回目を日本の（不活化ワクチン）で受けてよいでしょうか？</p>
	<p>→外国製品の接種後に日本製品を接種することについての明確な指針はありません。また、アジア圏と日本国内のワクチンの互換性も証明されていないため、日本で接種を受ける方が無難であるとの文献もあります。接種医とご相談ください。</p>
⑦	<p>成人で過去に狂犬病ワクチンを3回受けていますが、再度海外渡航することになりました。ワクチンの追加接種は必要でしょうか？</p>
	<p>→狂犬病の流行地域に渡航する人、犬や野生動物に接触する可能性の高い人等は、GSK社製狂犬病ワクチンでは2～5年毎の追加接種を推奨されています。</p>
⑧	<p>ハンガリーに渡航予定。ハンガリーの子どもはMMRを接種しているため、子どもにおたふくかぜワクチンを接種させたい。</p>
	<p>→任意接種で受けることができます。日本小児科学会では、1歳と小学校就学前1年間の2回接種を推奨していますが、1歳以上であれば年齢の制限はないので、何歳であっても接種は可能です。</p>
⑨	<p>コロナ禍で帰国（入国）が延期となり、その間に定期接種の期間が終了した児に対し、救済措置はありますか？</p>
	<p>→定期接種の対象年齢を過ぎた場合は任意接種になりますが、公費の扱いについては各市町の判断になります。</p>
⑩	<p>アメリカに渡航予定。おたふくかぜワクチンの接種が必要だが、幼少期にり患しています。その場合も接種が必要ですか？</p>
	<p>→抗体検査等で診断されていれば不要と考えますが、その場合も、最近の抗体価の記載が必要な場合もありますので、現在の抗体価の測定をお勧めします。その結果により、値が不足していればワクチン接種を、十分な抗体価があれば抗体価の記載でよいでしょう。</p>
⑪	<p>留学予定。麻しん・風しんの抗体価が陰性でMRワクチン2回接種を推奨されていますが、どのくらいの間隔が必要ですか？</p>
	<p>→接種の6～8週間後に抗体検査で確認し（十分な抗体価があれば10～15年効果が持続する）、低値なら2回目の接種をお勧めします。4週間あければ接種可能ですが、8週間あけるとより効果的です。</p>
⑫	<p>接種の英文証明書の発行はできますか？</p>
	<p>→小児保健医療センターでは英文証明書の発行ができます。事前の申し込みをお願いします。</p>